

知らなきや損!!

テクニカル分析に使える
エリオット波動



徹底解説

三説

～はじめに～

今回、【テクニカル分析に使えるエリオット波動徹底解説】コースをご購入いただきありがとうございます
私は投資歴 8 年(為替 4 年、仮想通貨 4 年)※2024年現在、専門トレーダーの【Yasu】と言います。

投資初心者の方、なかなか勝てるようならないと悩んでいて

- ・何から学べば良いか分からない
- ・自分が勉強した事が正しいのかわからなくなってきた
- ・勝敗は半々なんだけど、なぜか損失の方が多い

など

色々あると思いますが投資をしている人は、いつか必ず通る道。

自分の場合は過去に 5 0 0 万円以上の損失を抱えたりリアルタイムで 1 2 0 万円を 3 0 分で失われる瞬間を見るなど様々ありました
そんな自分が今では過去の損失を全て取り返し年間収益はプラスで 終え、専門トレーダーとして活動出来ています。

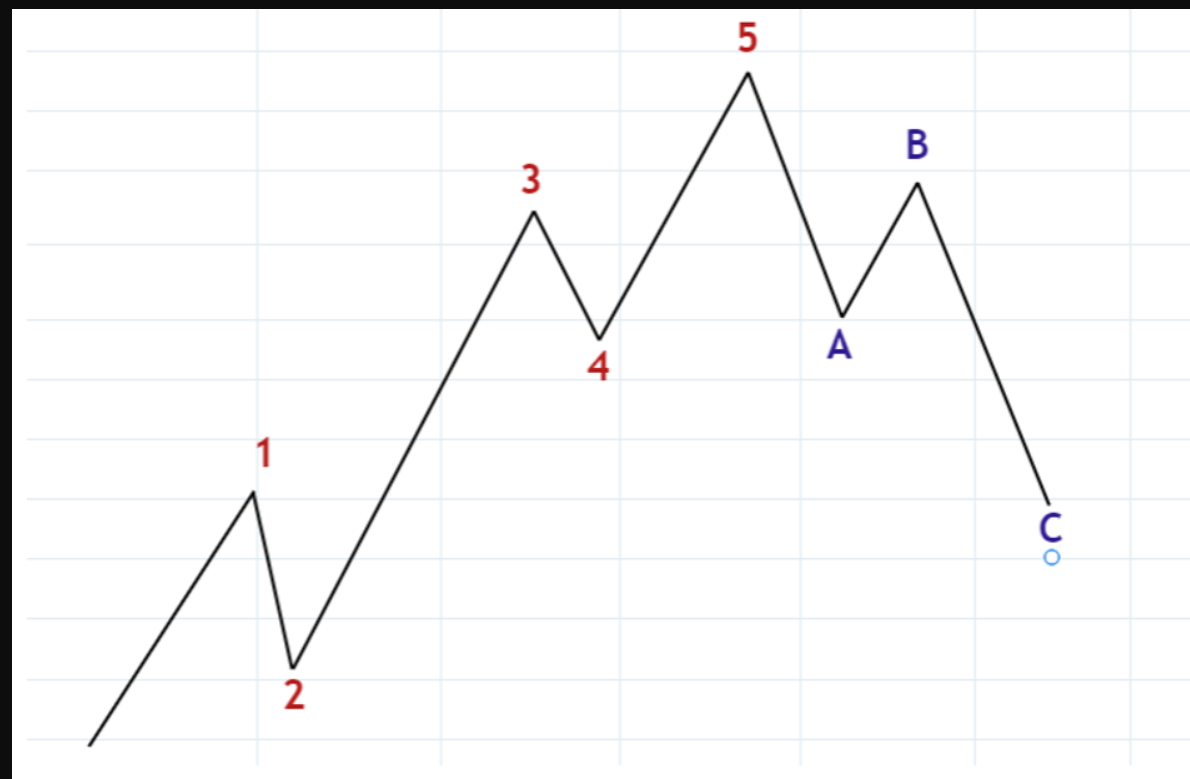
今回のコースも含め何種類かのコースに分けて自分が培ってきた知識や経験を執筆しているので
そのままマネるもよし内容を噛み砕き、皆さん一人一人の中に取り込んで皆さんなりの手法を作って行っていただければ幸いです

<目次>

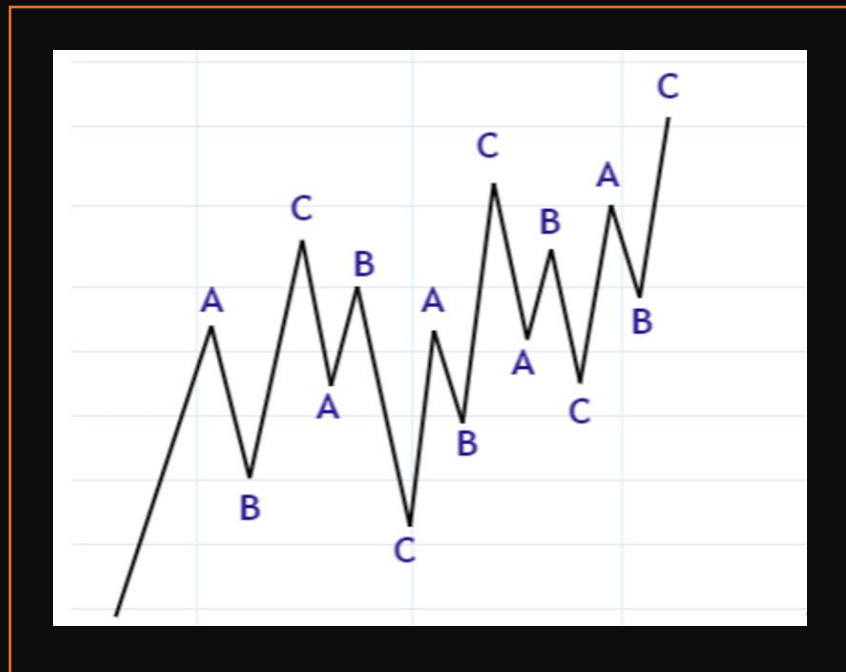
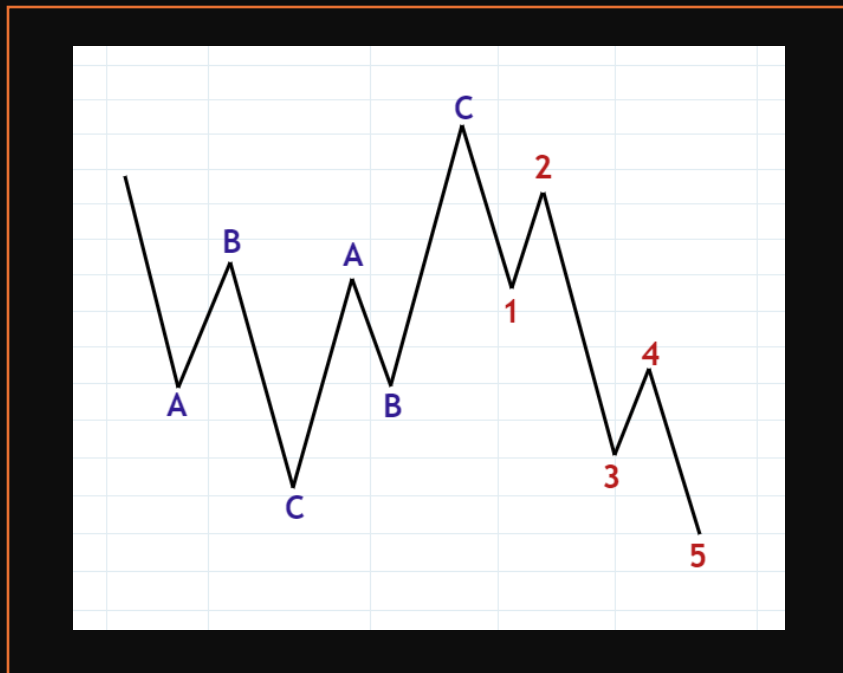
- ・はじめに
 - ・エリオット波動
 - ・成立条件(ルール)
 - ・各波形の特徴
-

<エリオット波動>

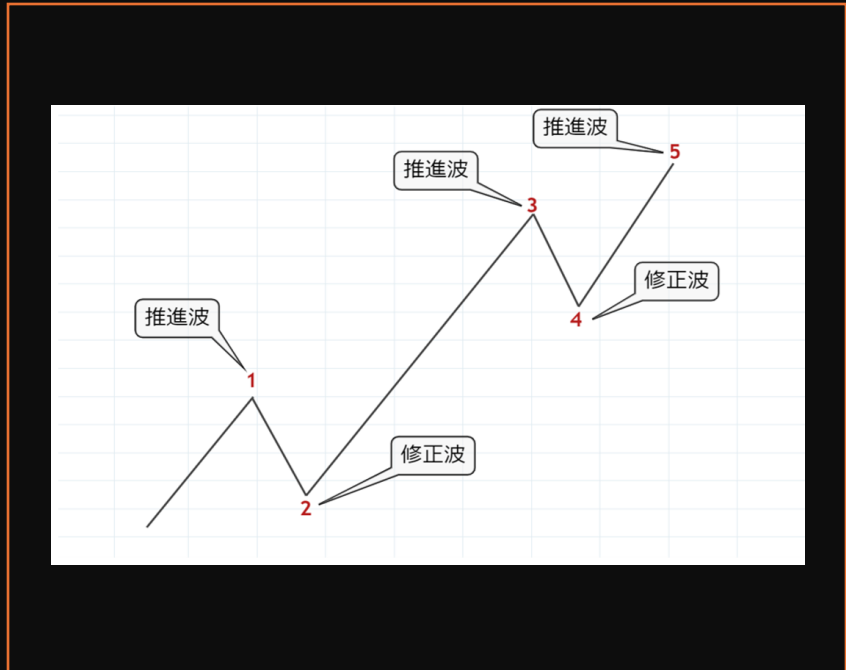
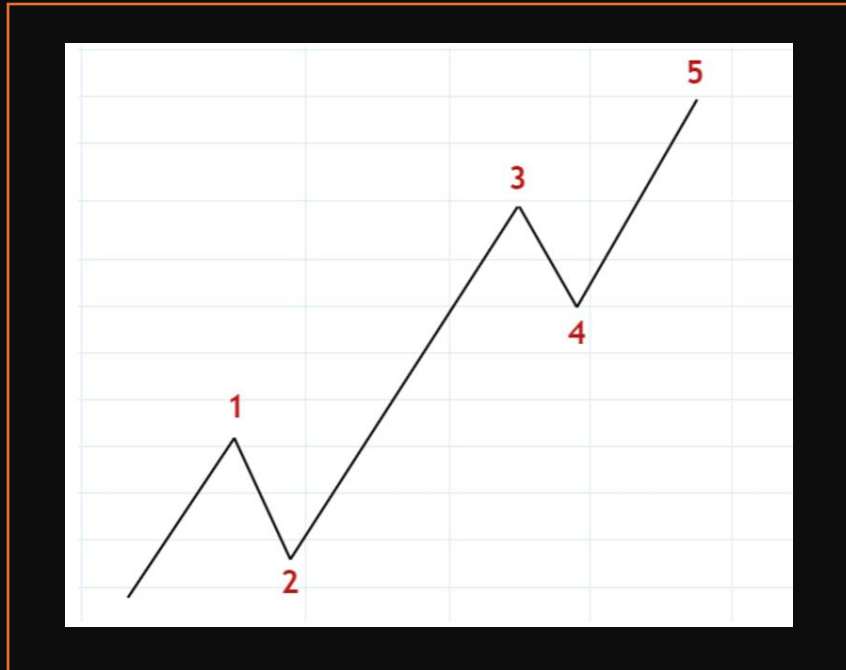
エリオット波動とは次のように
5つの波で上昇し3つの波で下落する
チャート形状を基本形として考えます。



しかし他のパターンとして、
次のように3つの波で下がり3つの波で上がり
更に5つの波で下がるパターンや
次の様に3つの波が5つ連続して上下しながら
上がっていくパターンもあります



エリオット波動の基本的な形は次の
インパルス(推進波)になり
このインパルスは例外なく必ず
次のような構成になっています



【推進波】、【修正波】という名前は
それぞれ次の形の総称です

エリオット波動の基本波形

推進波

インパルス

ダイアゴナル

修正波

ジグザグ

フラット

トライアングル

<成立条件(ルール)>

エリオット波動(インパルス)には、
どの波形であるかを判断する為の
ルールが存在し成立する為に
必ず守れなければいけないものになります

①必ず5つの波で構成される

②インパルスの1波目は推進波、2波目はトライアングル以外の修正波、3波目は推進波のインパルス
4波目は修正波、5波目は推進派に必ずなる

③2波目が1波目の始点を越える(割り込む)事は無い

④1波、3波、5波の中で3波が一番小さくなる事はない
(一番大きい波である必要はない)

波の大きい順

3波⇒1波⇒5波

3波⇒5波⇒1波

1波⇒3波⇒5波

5波⇒3波⇒1波

⑤4波は1波を越える(割り込む)事は無い

※ファンダ絡みの4波形成の場合はテクニカル無視の下落が
起こる事もある事もあるので割り込むこともある

このうち③④⑤は三大ルールと呼ばれていて
最も重要なルールですが

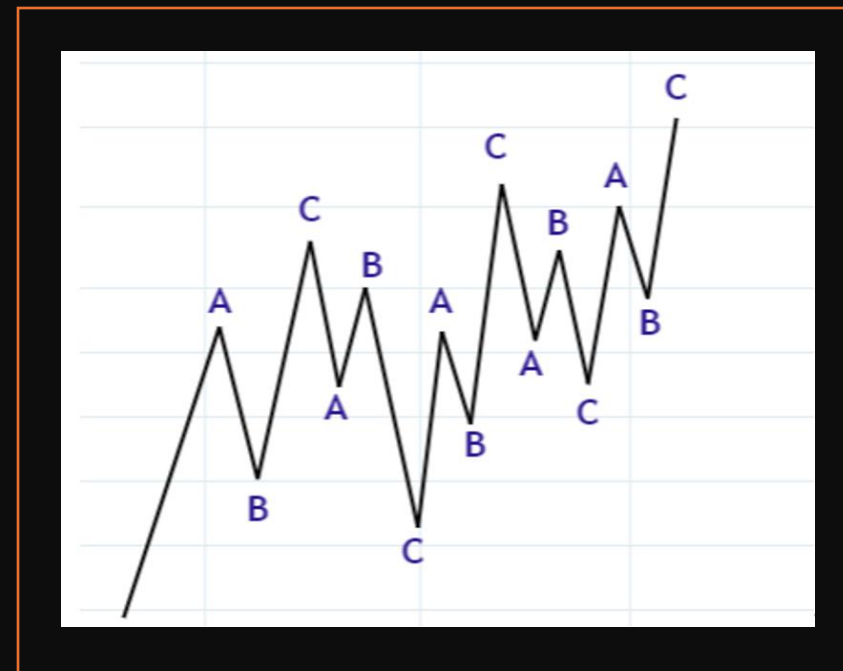
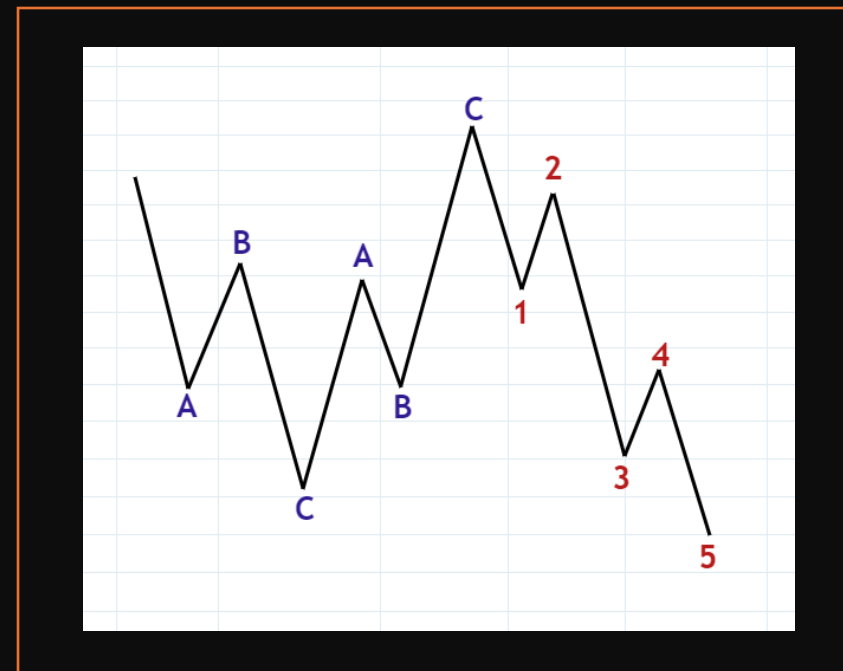
①②もルールなので守られなければなりません

<各波形の特徴>

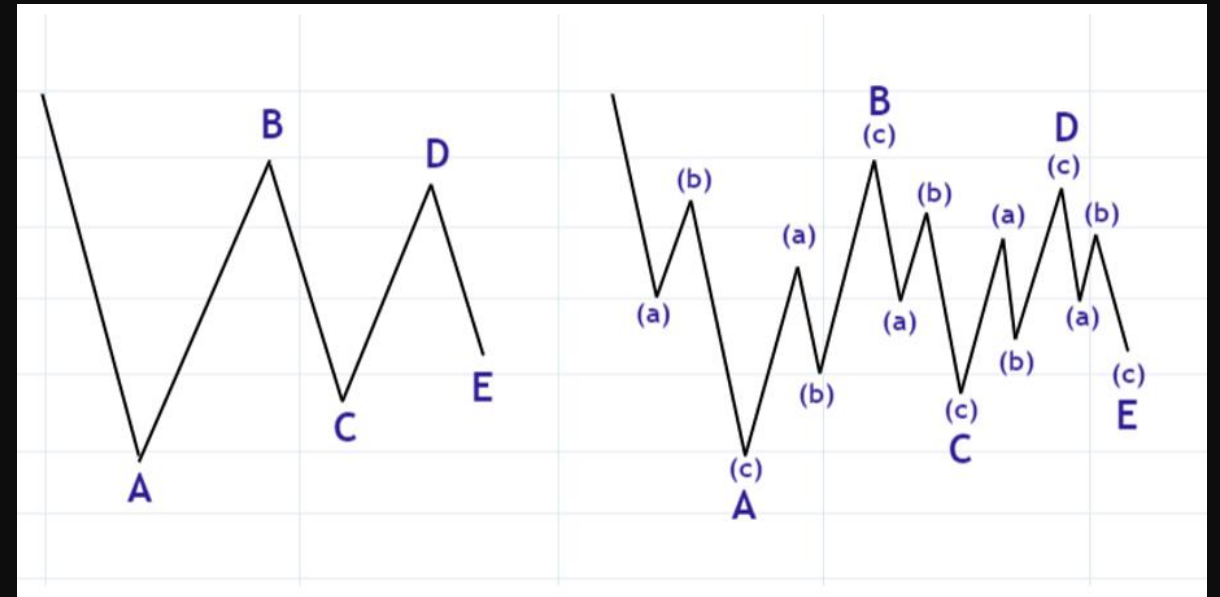
総称の部分で【ダイアゴナル】【ジグザグ】
【フラット】【トライアングル】

という名称がありました

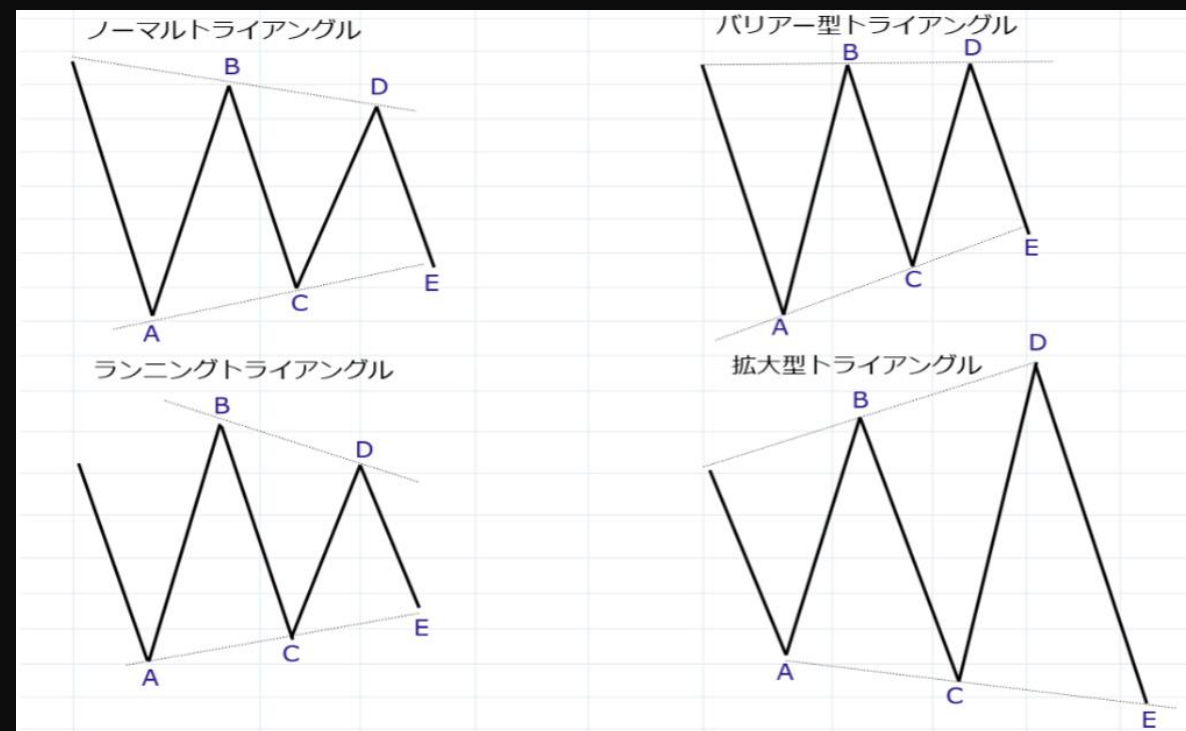
まず、上の形が【フラット】で
下の形が【ダイアゴナル】という波形



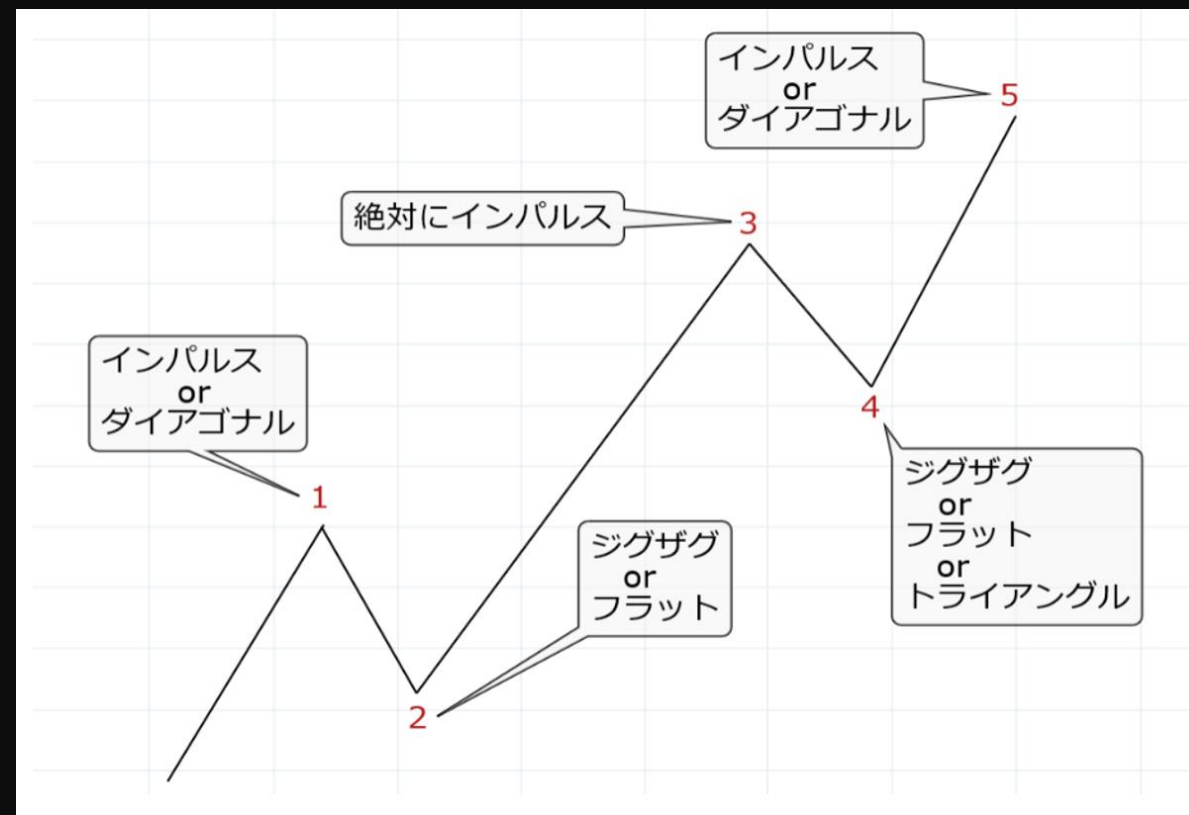
【トライアングル】の基本形が画像左側。
全体がABCDEの5つの波から構成され、
ABCDEそれぞれが
【ジグザグ】(画像右側)です。
このジグザグがダブルでジグザグに
なっている事が良くありますが、
まれにABCDEのうちどれか一つが
トライアングルになる事もあります
最もトライアングルになり易いのはE波、
ABCDEのどれかがフラットや複合型に
なる事もまれにあります



トライアングルの基本形の中でも4つのパターンが存在します
通常トライアングルのトレンドラインはA波終点とC波終点を結んだものと、B波終点とD波終点を結んだものの2つになります
基本的にはE波はA-Cライン上で終わりますが、A-Cラインに届かずに終わる事も、A-Cラインを越えて終わる事もあります
収縮型トライアングルにおいてEがC波終点を越える事はありません

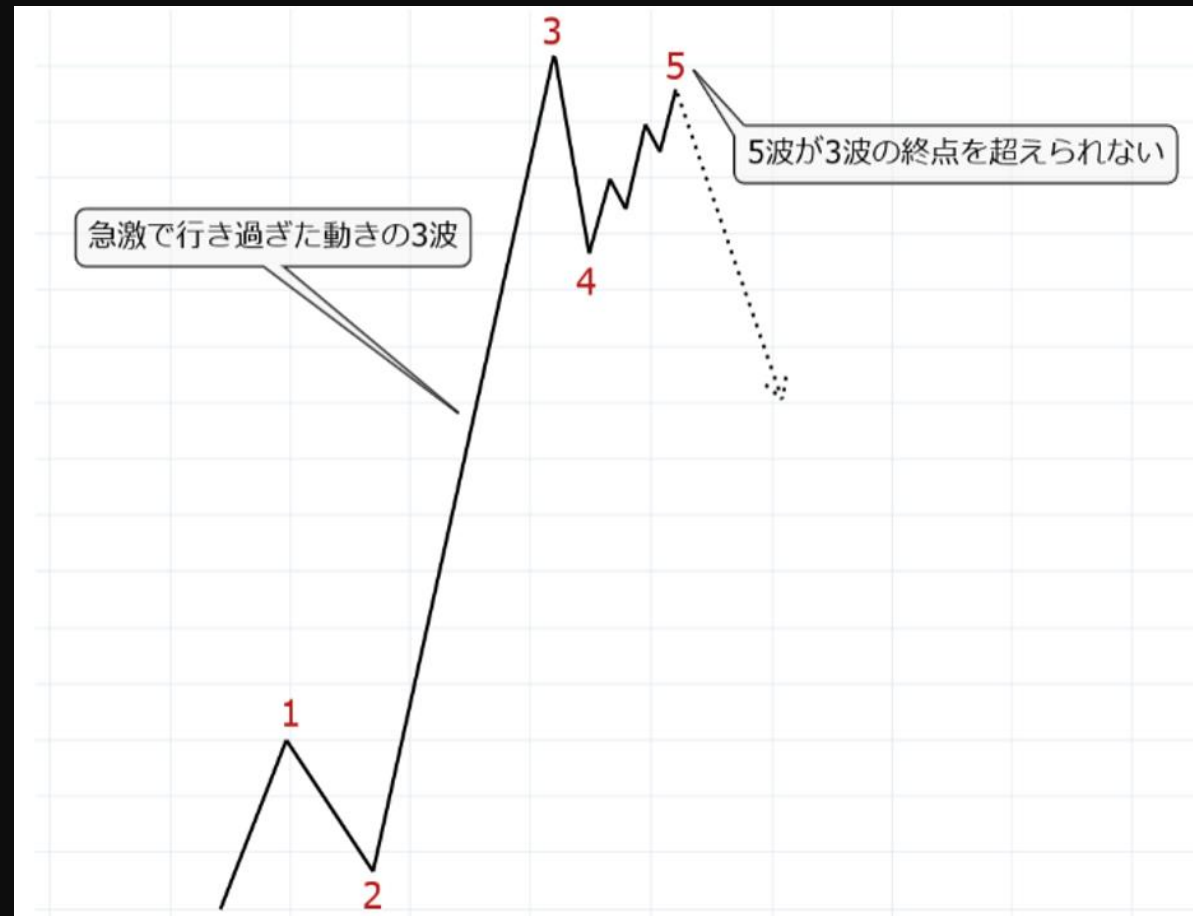


【インパルス】 【ダイアゴナル】
【ジグザグ】 【フラット】
【トライアングル】は
どの場所で発生するのは
画像の通りです



① トランケーション(フェイラー)

右の模式図のように、インパルスの3波が急激で行き過ぎた動きになった場合、5波が3波の終点を超えられずに終わることがあり、これをトランケーションまたはフェイラーと言います。



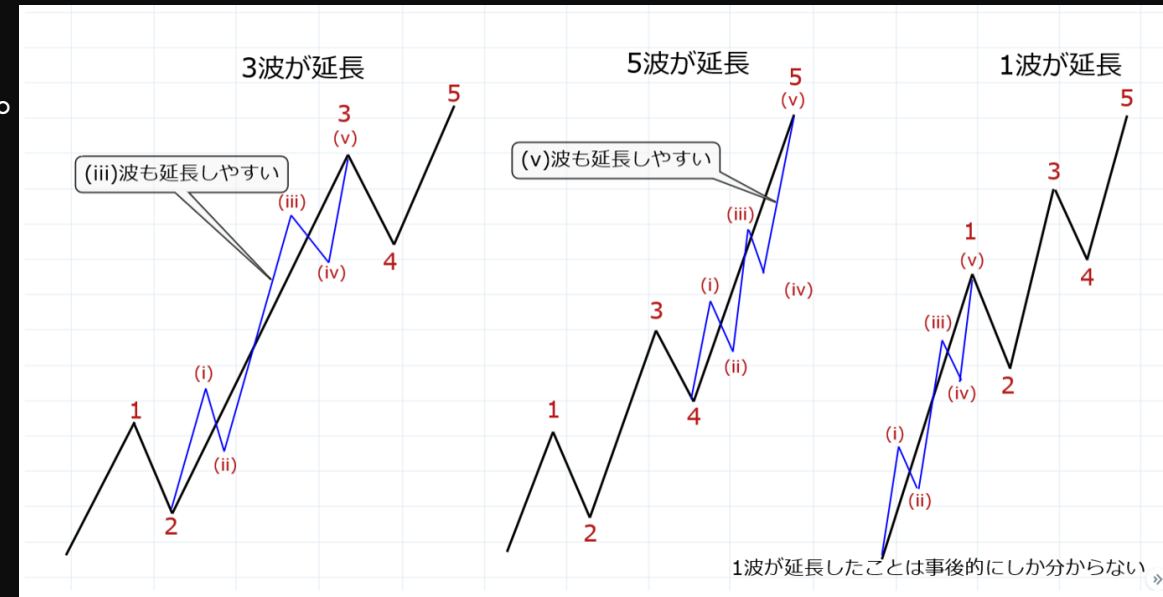
③波の延長(エクステンション)

最も延長しやすいのは3波で次に延長しやすいのは5波です。
1波が延長することはほとんどありません。

また3波が大きく延長したときは、その副次波3波も
しばしば延長します。

その結果、3波の大きさが1波の3倍近くになることも
珍しくありません。

当然ですが、延長した波動は必ずインパルスになります。
ごくまれに3波と5波の両方が延長することもあります。



④修正波の深さ

インパルスにおいて、1波に対し2波は深く修正し、4波は3波に対し浅く修正すると言われてています。

その逆に1波に対し2波が浅く修正し、4波が3波に対し深く修正する事もあります

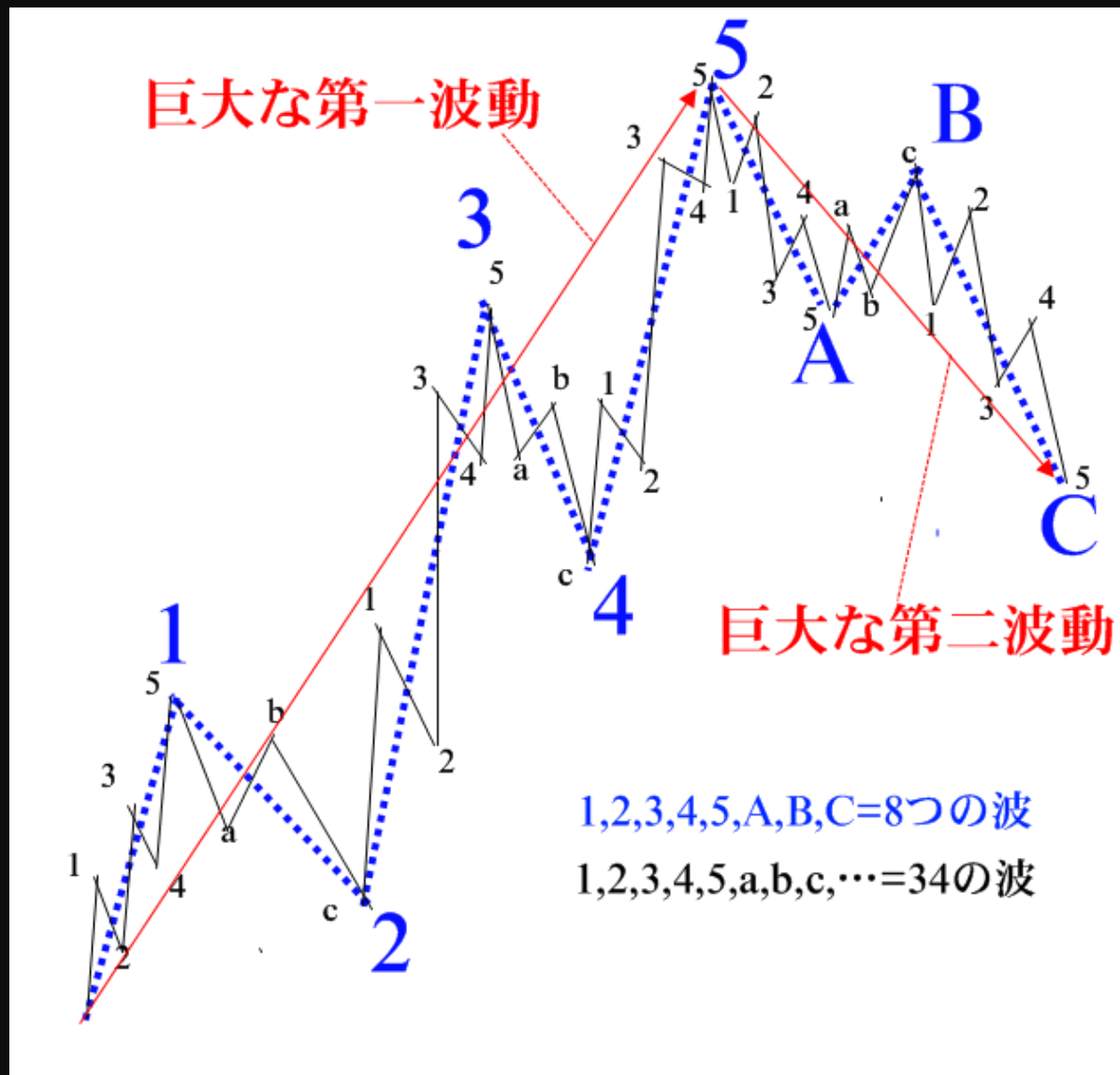
<フラクタル>

画像の様に部分と全体が同じ形をしていることを「フラクタル構造」と言います。

エリオット波動ではこのように波動は全てフラクタル構造になっていると考えます。これはエリオット波動原理の中でも最も重要な概念です。

波動がフラクタルになっているということは言い換えれば、

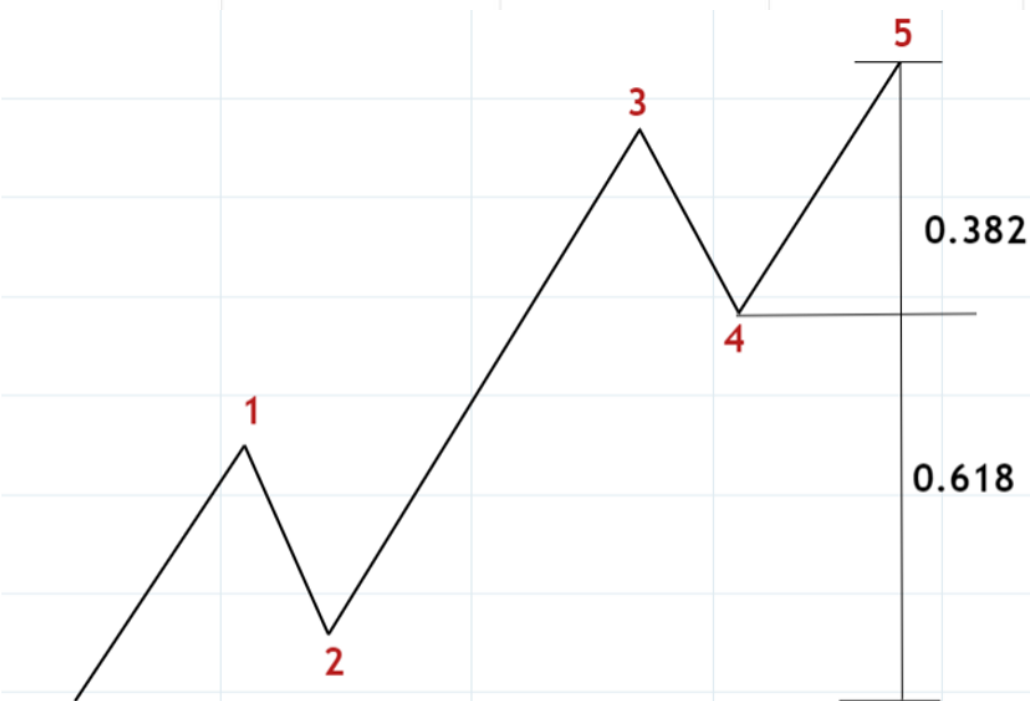
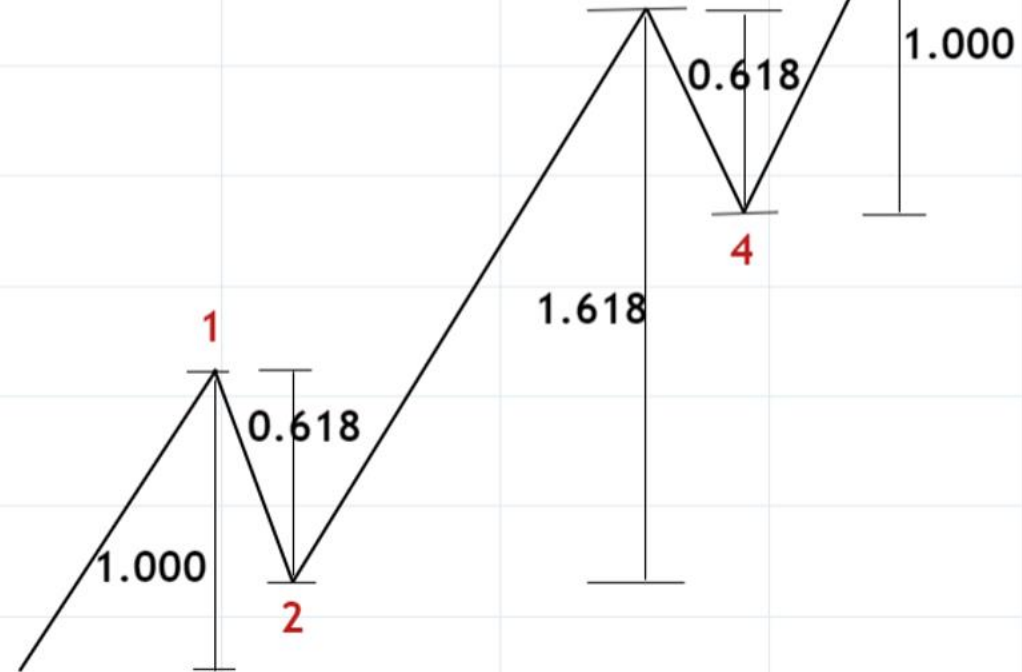
「全ての波動はより大きな波動の一部」ということになります。



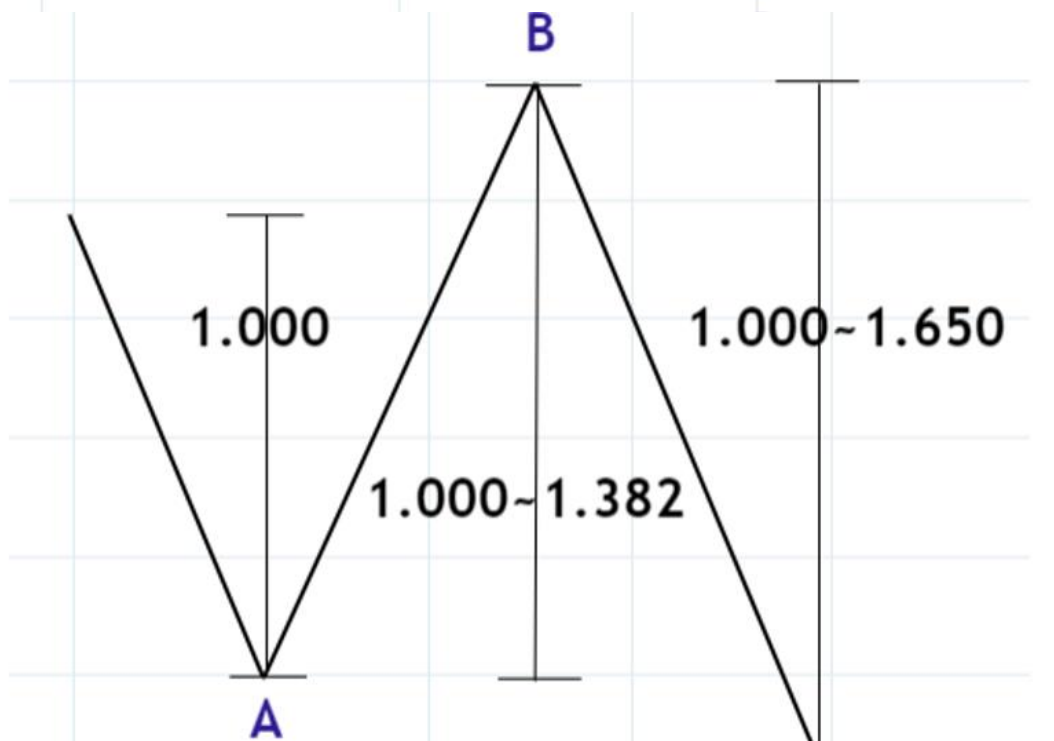
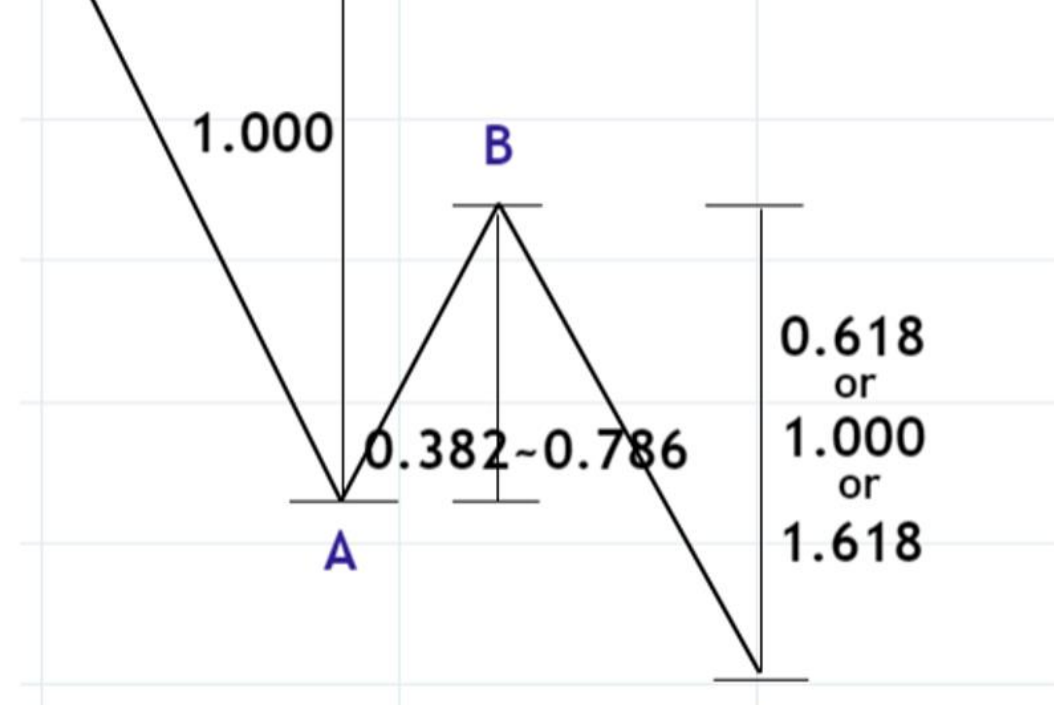
<フィボナッチ>

インパルスの修正波の深さや、
次の推進波の長さを想定する際フ
ィボナッチを使用する事が多く
理想の比率はコチラ

また次の様に4波終点の位置で
インパルス全体を
黄金比率に分ける事も
理想とされています



その他【ジグザグ】(画像上)
【フラット】(画像下)
の理想の比率右の画像と通りです



最後に【トライアングル】ですが波動同士は次のようなフィボナッチ比率になることが多いとされています。

